

# 文化高知 31

## ある日の電車

橋井 昭六

高知の電車に乗ってこのごろ感ずるのは、圧倒的に客に女性が多いことである。それも年配の人が多い。

この間も、日曜の午後、上町五丁目から西向けに乗ったが、数えてみると、乗客三十七人中、男性は私を入れて四人だった。男はマイカーにでも乗っているのだろうか。電車がもしなくなったら、このおばさんやおばあさんたちはどうするのだろうかと思うと、公共交通の役割をいろいろ考えてしまう。

私は子供のころから定期をとって電車に乗っているので、十分電車風景を見てきている。高知に電車が走り出して八十五年だが、そのうち三分の二の観察は足りている。

ある朝、出勤時、偶然古い型のチンチン電車が西からやって来た。「維新号」と名付けられている。これは車掌さんが特別に乗っており、おしゃべりで大サービスをする。

「おはようございます。後免まで参ります。やっと男性が乗って参りました。」

見ると女性が十人に男性が私で二人目。車掌さんは、のべつ幕なしにマイ

クでしゃべる大奮闘で、話題は世相万般に及ぶ。

「ときどき子供の時代へ帰りたいと  
きがありますね。鉛筆も昔は小刀で削



「風景」平田 慎一

つておりました。筆箱へ綿を敷きまして折れないように。今は削り機でどんなに削ります。物がありません。はい次は乗出です」

グラランド前と言わないところがいい。つづいて歌のサービスになり、

「夏も近づくと八十八夜、野にも山にも  
若葉が繁る……」

と張り切って歌ってくれ、

「手がなりませんね」

と来たから私は拍手でこたえた。おばさんたちも皆、くすぐったそうな顔で笑っている。

「それじゃ、どなたか歌を」

とマイクが回ってきそうになつたところで、運よくというか残念にもどうか、下車地点が来たので私は降りた。あとはどうなったか、車掌さんの独演はつづいたであろう。私は電車の健闘を内心大いにたたえたのである。

電車の中でもう一つ気づくのは、客が平然と荷物を脇へ置いて席をふさぐこと。お繰り合わせをしない人がいること。下校時に、生徒が集団で席を占拠し、おしゃべりして大人を立てせていること。白いカパーの高齢者、身障者優先席もお構いなしに若者が座ること。これらのことは改めたいと思う。

(高知新聞社代表取締役社長)



# みみずのcantarロー

田島 征彦

京都府下の山奥で、自給自足の生活を送っています。米や野菜はもちろん、鶏・合鴨・七面鳥や兎の肉、卵など農産物の全くかかっていない健康な食料を、ぼくたち夫婦は子ども三人と、力を合わせて作り、食べています。肥料は五人のひりだした立派な糞尿と、鶏舎に毎日運び入れる草やわらが家畜たちの排泄物と混ぜられて、よく熟成した堆肥です。だから畑には、たくさんのみみずがいて、肥料を土に分解してくれています。

こんな生活を始めた十五年ほど前、よく太って、元気のよいみみずたちを見て、少年時代に育った高知県吾川郡芳原村（現在の春野町）の山の中にいたcantarローみみずを思い出しました。

芳原村字磯戸の集落から、田んぼのむこうに愛宕山が見えました。山の頂近くにあなたごさんのお宮がありました。春と秋の神祭には、大人たちが手に酒と料理を持って登りました。

みみずが、はいだしてきて驚かされました。それがcantarローみみずです。cantarローみみずを主人公に一冊の絵本を描きたいと、もうだいぶん前から構想を練っています。

みみずのcantarローは、山の宮の縁の下で、梅雨あけをつけるような、激しい雨が椎の木の葉をたたき音で目をさまします。峠で女友達に会う約束を思い出して、濡れた落葉の上を滑ってゆくとテマリムシの一家に会いました。テマリムシはチョットと突くと、まんなるくなつて転がります。cantarローは、そんな悪戯をして遊んでいるうち、くさった栗のイガが体にささってしまいます。泣いているcantarローをハサミムシが助けられます。ハサミムシはおしりのハサミで棘をいっぼんづつ抜いてくれたのです。いろんな虫たちに出会いながらやってきたcantarローは、美しいまっ白なヤッコソウの群生の中へ迷いこみました。気品高いヤッコソウたちは、顔もおしりも分からないcantarローをからかいます。そんな自分の姿がイヤになっているcantarローの前に女友達が現れました。ところが彼女は、cantarローの姿にうっとりしているのです。雨あがりの尾根から尾根へ大きな虹がかかり、

それがcantarローの体いっぱい映っていたからです。

三十五年ぶりに春野町字芳原小字磯戸を訪れました。話には聞いていましたが、田んぼのむこうの山は削り取られ、広びろとした住宅地が開けていました。それに、なんと住宅のむこうに隣の村が見わたせるではありませんか。地形まですっかり変わってしまった故郷を、ぼくは悲しい気持ちで歩きました。よそよそしい顔をした住宅の中を歩いてゆくと、申し訳ほどに残された崖の下に、愛宕山参拝登山道の立て札を見つけてきました。急な階段を登っていくと、思いのほか、お宮さんまでの道は近く、それでも、お堂の周囲は昔のままです。

盛夏のことであり、cantarローには会うことはできなかつたけれど、きつと、ここ三、四年のうちには、絵本『みみずのcantarロー』を完成させるつもりです。

そのためには、cantarローみみずが元気に滑りおりにくる土佐の山を探さねばなりません。それにヤッコソウのことも、もっと研究します。

読者の皆さんのなかにcantarローと親しいかたがいらっしゃいましたら、是非、ご連絡下さい。お待ちしています。

(画家・絵本作家)

平成元年度全国高等学校総合体育大会の開会式が八月一日、高知県立春野総合運動公園陸上競技場で開催された。

私は仕事の勤務のことを考えて、ウィークデーに開催される開会式へは全く行く気がなかった。七月に入ってから、高校二年生の娘のマスゲームの練習が毎日のように始まり、日に日に真っ黒に日焼けしてゆく顔に目だけが輝いて見えるようになった。娘は「マスゲームの練習は体力が消耗してやせそうで嬉しい。後で配ってもらえるスポーツ飲料がたまらなくおいしい」と白い歯を見せて言った。本番で着る水色のレオタードと水色と白の長いひらひらのスカートとを持ち帰り、「ダサーイ、カッコワルイ」と言いながら着替えて、自分の部屋からちらりと姿を現すと、あわてて隠れてゲラゲラ笑った。私も中学三年生の息子も、足元が見えないほど長い大きなスカートを見て腹をさすりながら笑った。今までよそ事のように考えていた総体が急に身近に感じられるようになっていった。その時も勤務の合間をみてテレビの中継放送を見るつもりでいた。休暇を取ればもつたないし、炎天下のスタンドでは日焼けするだろうし、たぶんいいようなない暑さで体もこたえると思ったりした。母子家

庭の私はこの一、二年、失業、再就職とあわただしく、二人の子どもをほったらかしにしてきた。

ある雨の日仕事から帰ると、娘が頭からずぶ濡れでマスゲームの練習から帰ってきて、「お母さん、見に来るやろ」とタオルで髪をふきながら言った。「ええっ?」「総体よ」と娘はほほ笑んだ。「もちろん行くわよ」と私はためらわずに答えて、何かとても大切なものを忘れて生きてきた

指している。「あんまりごちゃごちゃい。お母さんせめて四時五十分にしちよきや」と息子が言った。「けんどう何か思わくがあるんやろうかねえ」、私は家にある五つの時計全部を息子に持ってこさせて時差で目覚ましにセットすると、窓の外に向かつて明日の好天を祈った。

一番目の目覚ましで私は目を覚まし、窓の外を見上げたが、暗い夜空から雨の降る音が規則正しく聞こえていた。雨空をうかがっていた娘は「今日は弁当がもらえるき、嬉しい」と言うので、合羽をはおって出て行った。

## 結べ友情

## さわやかに

木村 美恵子

私と息子は入場締め切り一時二十分の二時間前にタクシーで着いた。幸いなことに雨が上がり、まぶしい日差しが緑の多い運動公園に降り注いでいた。私は何度も青い空を見上げて感謝した。開会式が流れたら娘の一年間の努力が無駄になる。

梅雨明けの後雨の降る日が多く、前日の夜も降ったり止んだりした。私たちが親子三人はテレビの天気予報を見、177へ何回も電話をした。翌朝六時五十分には高校へ集合の娘は一足早く床についた。私は眠っている娘の部屋の目覚まし時計を確認しに行つて驚いた。針は三時五十分を

開門になると、長蛇の列の後ろについてメインスタンドへ駆け上がつた。「競え技、結べ友情、さわやかに」の大きな文字が正面に見えた。グラウンドに目をやると鮮やかな花で作られた総体のシンボルマークがある。

公開演技マスゲームが始まると六〇名の男子生徒が紅白のユニフォームを着て入場してきた。彼らの一生懸命に走る姿を見て、私はなぜか涙が出てきた。汗をおさえる振りをしているハンカチでぬぐった。男子が退場すると一、四四〇名の女子が入ってきた。レオタードの下スカートが華やいで美しい。そのせいか大人びて見える。水色のスカートが日差しを受けて輝いて揺れている。女生徒はスカートを両手でいっぱい広げて流れる川のようにグラウンドへ走り出てきた。川はやがて青い海原になって広がり、あつというまに白い波ができては次つぎと打ち寄せってくる。

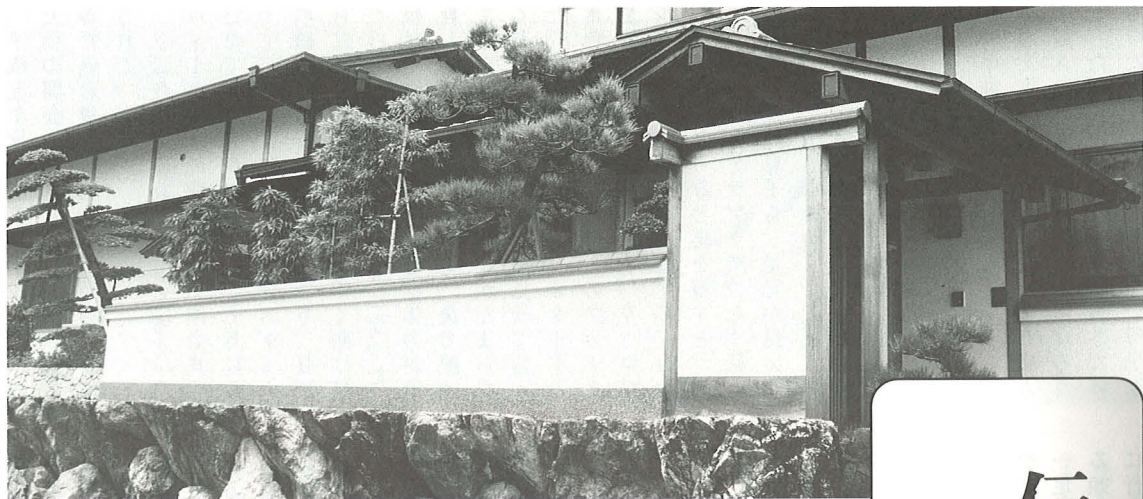
「お母さん、選手以外の高校生も一人一役で高校生による総体ながで……」娘の声が頭をよぎった。私は手が痛くなるほど拍手を続けた。娘たちの「平成元年」の人文字が走り去ると、雲の切れ間に開会を告げる煙火がドドドドドーンと鳴り響いた。

(高知文学学校研究科生)



# 伝統に培われた土佐漆喰

山本 張允



漆喰はわが国独特の塗壁材料で、壁や天井などの塗料、あるいは石や煉瓦の接合の材料として用いられてきました。消石灰にふり、苦汁などを加え、これに藁や糸屑、粘土などを配合して練ったもので、特に高知県産のものは粘着力に優れ、また明治以後、秋月伝太・井上万蔵が塩を使って改良を加えたため土佐漆喰は良質のものとして全国にその名を知られています。

私が漆喰にかかわるようになったのは、昭和三十一年の秋に志和一樹さん(師匠)の元に左官の見習いとして弟子入りしてからです。それまで、左官の仕事が好きだとか漆喰に興味があるとかということはありませんでした。漆喰は全くなかったのですが、やっていたうちにだんだんおもしろくなって今に至っている

わけです。

漆喰を扱う基本は、「練ること」と「塗ること」です。

弟子入りしてまず最初にすることは、「練ること」です。毎日毎日、来る日も来る日も練ることばかりです。壁土、セメント、漆喰、それから研出の石を貼る時目地を塗る材料etc. 材料の配合や練り具合がわかるようになるまでには一二年かかります。しかし「練ること」は、左官にとっては基本の基本で、きちんと覚えていないと、いざ自分が塗りたい時に自分が思うようなものが出てくるかどうかわからないということにもなりかねません。それは実際に自分が練ってみて、経験の中から修得していくしかないのです。

セメント等を練ると漆喰を練るとでは全然違います。セメントや土などは材料を入れ水を加えてよく混ぜ合わせればよいのですが、漆喰

はそうはいきません。

私らがこの道に入った時分には、漆喰はまだ臼で搗いていました。餅をつくような臼にバケツ一杯分くらいの漆喰を入れてはキネで搗くのです。目を細かくするように、中に含まれているスサ(藁を腐らせてポロポロの状態にしたもの)を砕くような感じで、念入りに念入りにキネで搗きます。結局、セメントのように混ぜただけでは混ざらないのです。

搗いた漆喰は大きな木の箱に移し溜めておく。その上にムシロをかけて水を吹き、乾かないような状態にして置いておきます。それを二十日くらい置いておき、また同じように練り更に二十日、また同じ作業を繰り返して、いざ塗るときにはもう一度きれいに練って使うのです。

今はミキサーを使って練るのですが、寝かして置くのは同じで、漆喰を使うためには、少なくとも2、3ヵ月前には練り始めなければなりません。

せん。

早めに練って寝かして、石灰の黒い石を発散させておくと、非常にねばりが出てきて塗るにも塗り易く、またスサもよく混じっているのので引っぱりが強く、丈夫できれいに仕上がります。練りの段階で手を抜いて、買って来たばかりの材料を練ってすぐに塗ると、石灰の石が黒く浮き出

て来て仕上がりが大変悪くなります。

「練ること」を一通り覚えると次は「塗り」です。師匠の仕事ぶりを参考に見様見真似で覚えていきます。漆喰には大きく二つの塗り方があります。一つは「磨き」、もう一つは「塗りとり」というものです。

「磨き」とは厚さ七ミリくらいに漆喰を塗り、締めるような感じでその表面を何回もコテで擦って磨き上げていくのです。十回くらいコテを当てる、そうすると外壁や倉などでよく見かけるようなツルツルの壁ができます。

壁面は塗りとり、縁どり部分は磨き

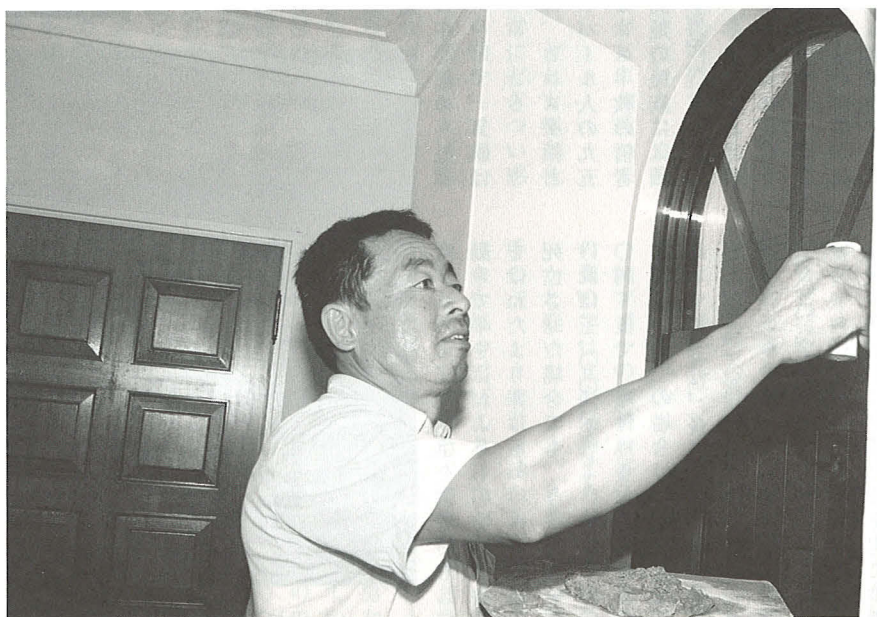
「塗りとり」は、「磨き」とは塗り方が全く異なります。コテを止めない、返さない、休ませないが基本で、一定方向にコテを運び、連続して一気に塗り上げていくと、浮き上がってくる砂の調子が変わり、境目ができてしまいます。ですから塗りつぎをしないよう、ひと壁を一気に仕上げなければなりません。そうして塗りが上がった壁は、質感のある落ちついた感じになり、また「磨き」よりも色が変わりにくく、キズもつきにくいのです。

漆喰は百年以上は軽く持ちます。

塗って一度乾くと雨にあたっても色はあまり変わりません。汚れもつきにくく、雨といっしょに流れ落ちてしまいません。雑きんでゴシゴシ拭いても、ホースで水をかけても大丈夫。しかも、コンクリートと違って断熱効果は抜群で、日が照りつけても割れるようなことはありません。そういう点ではまさに高知の風土に適した建材だと言えます。

漆喰を練り、仕上げまで一人でできるようなまでは二十年前かかります。しかも腕があるからといって漆喰の仕事が来るとは限りません。そういうことが原因かどうか、若い後継者がおらず淋しい気がします。

私は今、年に数軒、漆喰の仕事を



頼まれます。「一部屋だけ」「玄関まわりを」という部分的な注文が多い中、日本建築の内部も外部も漆喰で仕上げるようなそんな仕事を手がけてみたいと思っています。

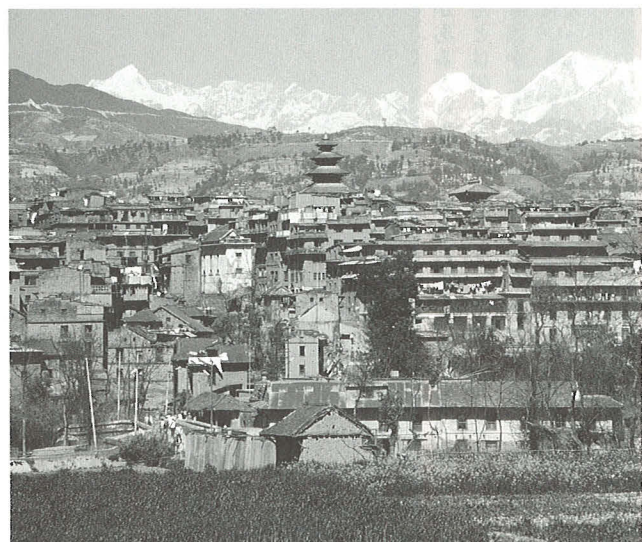
(左官)



# ナマステ・ネパール

## 1、神様と雷様

浜田 康



ヒマラヤ連山をバックにバクタプール市街

ネパールという言葉が耳にすると、雪と氷に覆われて雲上に聳え立つヒマラヤの連山を多くの人々が想像するであろう。実際にヒマラヤ連山には、世界第一位のサガルマタIIエベレスト(八、八四八メートル)、第二位のカンチェンジュンガ(八、六一一メートル)など八、〇〇〇メートル級の山々が十以上連座し、六、〇〇〇メートル以上の世界の高山の大半が、ここヒマラヤに集中している。私がネパールに足を踏み入れた三月初めはまだ乾期の真つ最中で、空には一点の雲もなく、一日中ヒマラヤの連山が眺められた。

この山の景色に憧れて世界中から観光客が集まるのだ。私が来る時にも、バンコクでカトマンズ行きタイル航空の受付だけ大勢の人ばかりであった。

ネパールの南の国境はインドと接している。このあたりの標高はわずかに三〇〇メートル足らずで、一年中猛暑の続く亜熱帯圏に属し、北に行くに従って高度を増して、気温も下がるが、熱帯・温帯・寒帯圏と異なる気候が存在する。このために、動物や植物の大宝庫となっている。

これが、登山家のみならず、昆虫や植物の愛好家がネパールに憧れる原因でもある。

私の昆虫好きの友人には、死ぬまでには一度ネパールで、ネットを振

つてみたいという人もたくさんいる。

私の滞在したカトマンズ盆地は、ネパールの首都カトマンズ市のあるところで、盆地の周囲は二、五〇〇メートル級の山々で囲まれている。中心部の平地は約一、四〇〇メートル位で、気候は高知と大差がない。

ネパールの宗教は、ヒンズー教と仏教に大別され、ネパール人の九五パーセント以上がヒンズー教の信者である。ヒマラヤ高地の民族には仏教(ラマ教)の信者が多い。

ヒンズー教では、牛は神様とされており、牛肉を食することは法律で禁止されている。このためカトマンズ市内では、ところかまわず牛が諸処に落し物をしながら物が物顔に歩いている。自動車も彼らに行く手を

塞がれたら立ち往生をする。もし自動車でも牛をはねようものなら、人間をはねたより罪は重い。人間をはねて死亡させた場合でも、うまく話をつければ三、〇〇〇ルピー(二五、〇〇〇円)位で、片付けられる。けれども神様(牛)の場合は、即、逮捕である。罰金は、最低一八、〇〇〇ルピー(九〇、〇〇〇円)は免れない。

ネパールでは、大学教授の月給が二、〇〇〇ルピー、一般労働者で六〇〇ルピー、〇〇〇ルピー位であるから、神様相手に交通事故を起こすと大変な事になる。たちまち一家の大

黒柱は刑務所行きである。そこで神様相手に事故を起こすと、運転手は、何はさて置きインドへ逃げ込むそうである。

インド、ネパール両国間はオープン・ボーダーであるから逃げ易い。八カ月から一年位して、ほとぼりが覚めたら、のこのこと帰って来る。カトマンズ市とパタン市の間に幅一〇〇メートル位のバクマチ川が流れている。ある日、その川の橋の上で牛が交通事故に遭った。無論犯人は逃げて居ない。この時、どちらの

市に神様が居るかが問題となり、毎日、新聞をにぎわした。

曰く「橋の中心が市の境界である」

曰く「川が一番深いところが市の境界である」

両市の主張はなかなか折れ合いがつかない。神様のいる方の市は、世話をする義務が生じるからである。数日後、やっと話し合いがついて両方の市から飼料を出して、神様を世話する事になった。しかし、骨折して動けず餌をもらえなかった神様は、

餌が沢山来た時には衰弱で餌を食べる元気もなく、間もなく昇天した。

カトマンズ盆地の中心部には、カトマンズ、パタン、バクタプールの三市が境を接してある。どれも昔の王国跡であり、ヒンズー教、仏教の寺が沢山あり、道も狭いので、その中をクラクションをけたたましく鳴らして神様を追いながら車が通って行く。

ヒンズー教の寺は、どれも極彩色に塗られており、非常にどぎつい感じを受ける。

カトマンズに住むネワール人は彫物の技術に優れており、寺の窓枠・柱など一面にいろいろの物を彫り込んでいる。それは単なる模様の場合もあれば、王様や神様の場合もあり、この時は、それぞれ何か物語が秘められている。この彫物の中で一番どぎもを抜かれるのは男女のそのものずばりのポーズを彫り込んでいることだ。あらゆるポーズを演じている図は、建物の上の方の柱、天井の支えなどに見られ、上を見ればお寺はセックスがいっぱいである。

で次第に死亡率は減り、子沢山は人口増加の原因となり、ネパールが頭をかかえる問題の一つとなった。

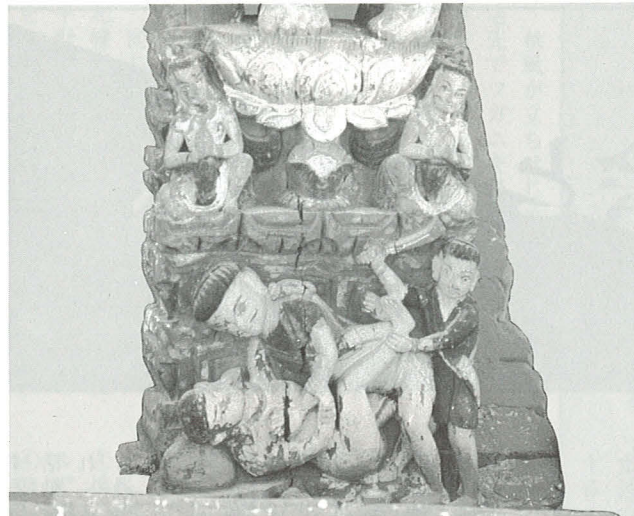
なぜにこんなに沢山のセックスの彫物があるのだろう。歓喜天(生殖神)、財産・子供を増やす呪いであるのか。それにしても何だか変な気分だ。

ヒンズーの神様は好色神で、聖典の聖の字は立心偏のまぢがいはないかと疑いたくなる。私の仕事の助手のジャンカー君に訪ねると、にやにやと笑って、これは雷が落ちぬ呪いだと言ってくれた。雷様は、おへそだけが好きのようだ。

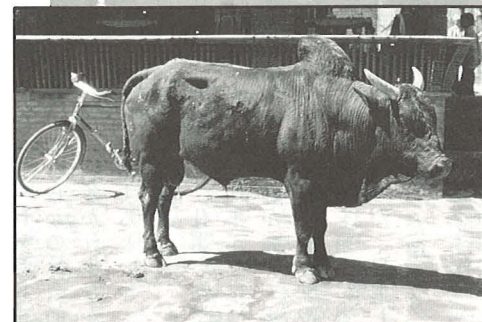
ネパール人にとっては、子供は宝物である。医学の発達していない頃は子供の死亡率は非常に高かったことであろう。沢山生んでおけば、そのうち何人か残るといふ訳である。しかし、今日では医学の進歩のお陰

私がカメラで撮っていると、男女のヨーロッパ人が笑いながら見ていたが、そのうちに彼らもバックの中からカメラを取り出して写し始めた。五月も半ばを過ぎモンスーンが近づいて来ると、時々一点にわかにかき曇り雷が鳴り響く。山国の雷はすさまじい。当時はお寺が一番高い建物であっただろう。雷よけの必要性もよく分かる。

ヒンズー教のお寺にくらべて、仏教のお寺は、はるかに落ち着いていて私達にはなじみ易い。古寺はやはり心の古里のような気がした。



上、ヒンズー教寺院の柱の彫刻(部分)  
左、町中をわがもの顔に歩いている神の使者(牛)



(高知県紙業試験場専門研究員)  
(注)ナマステとは「こんにちは、サヨナラ」等  
人との出会い、別れの時に使う日常語。



# 現代社会とストレス

永松 清明

「ストレス」は現代の社会を象徴する言葉となり、なんらかの社会的活動を行おうとすれば多かれ少なかれ「ストレス」に遭遇するといつても過言ではなくなってきました。

Pさんは、勤勉誠実、仕事いぢずらに過ごしてきました。仕事ぶりについては同僚の中でも評価が高く、本人もそれを励みに、休日にも趣味や家庭サービスよりも仕事を第一に過ごしてきました。ところが、昇進して仕事の責任が重くなった頃より、胃潰瘍を再三繰り返すようになりました。腹痛があり、内科の検査では胃潰瘍が見つかり治療を受けるとその時には治るのです。けれども三ヶ月位すると再び腹痛がおき、検査をすると胃潰瘍が再発しています。主治医から「仕事の負担が増えたこと、ストレスが原因で胃潰瘍が起きている」といわれました。仕事の負担という心理的な「ストレス」が原因となつて身体の病気が起きる「心身症」という状態の例です。

「ストレス」とは生体に、平常時以上の緊張を生じさせる強い刺激負荷を言います。原因としては、環境条件（光熱・騒音等）、対人関係、社会的習慣等の外的要因の他に身体的・精神的発達等の内的要因があり、Pさんのように弱いけれども長い期間持続し身体的な消耗をもたらす場

合や、肉親の急死など一瞬のうちに非常に強い衝撃を与え精神的な混乱をもたらす場合など負荷の強さ・持続期間・生体への影響の現れたにもいろいろなものがあります。

Dさんは三十二歳、まじめな性格、人が良すぎるのがあって言えば欠点かも知れません。四月に対人サービスを主とした職種から、デスクワークを主体とした職種に変わりました。まだやり残したこともあり、もう少し続けたいと思いましたが、拒否するわけにもいきません。新しい仕事にもなれてきました。ところが七月になると、非常にむなし気分がします。寝付きが悪く、夜中に嫌な夢を見て何度も目覚めてしまっています。朝、暗いうちから目が覚めていますが、身体が疲れきっており動くこともできません。遅刻をすれば同僚に迷惑をかけるので身体に鞭打ってギリギリの時間に出動します。つらそうな顔をして上司に心配をかけてもいけません。期限のせまった手つかずの書類が机の上に山をなしてしまいました。「今日こそは……」と思

います、どこから手をつけたら良いか判断できません。書類をぼんやりみているうちに「死のうか……」と呟いていました。転勤・転職・転居・離別等の「ストレス」から生じる「うつ病」の例

です。

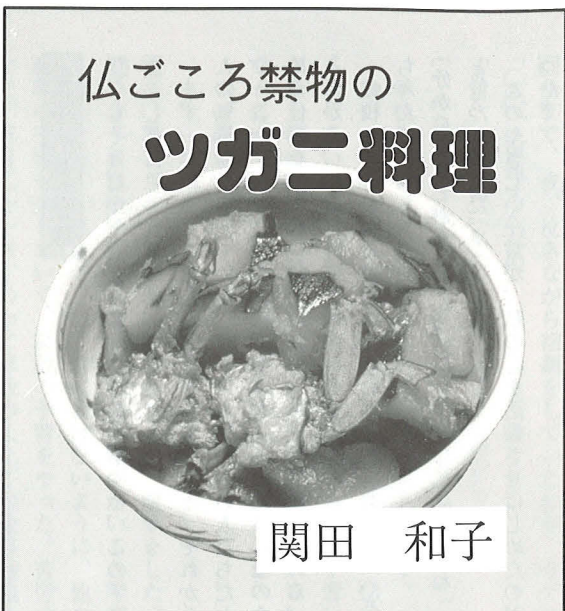
「うつ病」は、まじめな人に起こる「心と身体の強い過労状態」を示す危険信号です。適切な治療をうけ、ゆっくり休養をとることで完全に元の状態に回復することができません。しかし、もともと責任感の強い人がなりやすいため、周囲に気遣いをして十分に休むことができないことも見られます。「うつ病」が起らないようにしていくことが一番大事なことです。少なからぬ人々が「うつ病」にかかる現在では、「うつ病」について本人も周囲の人々も適切に理解することが必要だと思えます。

人間という生き物は環境の変化に対して自分を防衛し適応していく生体維持能力を持っています。しかし、無理をしてその能力の限界を超えてしまふことが、現代社会ではしばしば要求されるようになってしまいました。

ストレス社会を生きるには、健康の阻害要因を知ること、趣味等のストレス解消法を持ち仕事と休息を使い分けること、病気への対処の仕方を知ることが必要と言われますが、個人的な努力だけでは限界があり、ゆとりのある生活ができるように社会全体の問題としてとらえる視点も必要ではないでしょうか。

（高知県立精神保健センター所長）

## 仏ごころ禁物のツガニ料理



関田 和子

にある三角の殻）と足先だけ。殻つきのままカボチャやさうめんのだしにしたり、殻のまま臼で搗いて「ガネみそ」にして保存食にする。カニのせんごう（甲羅）の裏にへばりついている黄色い脂も、みそと混ぜ合わせて「せんごう焼き」にして食べる。動物性タンパク質の乏しかった山村に伝わる料理である。

ツガニは生きたのを料理するのがコツ。白の中で逃げまわるカニを次々に搗いて作る「ごごり」は少し残酷だが、一度食べたなら忘れられない味である。

### ツガニのじょう

材料ツガニ10〜15匹・秋ナス2個・青ジソ・酒大さじ2・しょうゆ適宜  
作り方①カニをバケツに入れ、水を何回か入れかえて洗う。

②洗ったカニを白に移し、入念に搗く（ミキサーにかけてもよい）。  
③搗いたカニに水を2位入れ、ザルで濾して殻を除く。  
④濾した汁を鍋に入れて火にかけ、薄く切った秋ナスとともに煮る。火

が通るとカニのたんぱく質が卵とじのように寄ってくる。

⑤酒、しょうゆで調味し、青ジソのきざんだのを入れる。

北幡ではツガニのことをガネという。代表的な料理は「ガネみそ」。昔は塩をきかした保存食だったが、今は塩を控えて匂の味を楽しむ料理になった。

### ガネみそ

材料ツガニ20匹・塩（カニの目方に對して3%）・糠適宜・油少々  
作り方①カニのせんごう、いしずり、足先を除き、白で細くなるまで搗く（ミキサーにかけてもよい）。

②これに塩と糠を加え、みそ位の固さになるまで練る。  
食べ方はリュウキュウの葉で「ガネみそ」を包み、いろいろの熱灰に埋めて蒸し焼きにして食べたが、今は油を引いたフライパンに「ガネみそ」を薄くのばし、両面を焼いて食べた

### ガネとカボチャの煮物

材料ツガニ3匹・カボチャ400g・酒、砂糖、しょうゆ適宜  
作り方①カニのせんごう、いしずり、足先を除き、足を持って左右に引き裂く。

②適当な大きさに切ったカボチャとカニを鍋に入れ、水を少し加えて火にかけ、煮立ってきたら酒、砂糖、

しょうゆで調味し、味がしみるまで弱火で煮る。

ツガニからはおいしいだしが出るので、北幡ではカボチャの煮物のほかに、そうめんの汁にも使う。

何よりも手っ取り早いツガニ料理は塩ゆで。カニの身をせせりながら食べるのも楽しい。鍋に水を入れ、この中にカニを泳がせながら火にかける。熱くなって這い出そうとするカニを、蓋でおさえつけながらゆで上げる。カニにとっては地獄変。かわいそうだから一思いにと熱湯に放り込んだりすると、ハサミや足がもげてしまふ。ツガニ料理に仏ごころは禁物である。

（元県農業技術研究所専門研究員）



写真「聞き書高知の食事」より



『大きな学級』〔I〕

生きている子どもたち

東森 昭

転校生の見た学級

回今もそうだが、転校してきた時からずっと、この学級をふしぎに思った。

まず一つには、みんなが大変やさしいこと。それから人の気持ちを考えているし、とても気のいい人たちだということ。それに、中には、せっせよく的にみんなのための仕事をし、自主的に勉強し、意見を出す人もいる。とにかく、見るだけで、かがやいているのだ。

転校してきた時の最初の集会の時、○○ちゃん、○○ちゃん、○○ちゃんが、「分かんことがあったら、何でもいいいき、聞いてね」と言ってくれた。

このやさしい一言が、私の心を活動させはじめたのだった。

素顔の子どもたち。

回今まで、夜、泣きながら宿題をしていた私が、今では、「○○、宿題すんだの」

「うん、今日の（私の）予定の所まで終わらせた」

「そんなら、これやっちゃよきや」  
学校の勉強以外の勉強もするようがあるのです。なぜ、こんなにかわったのでしょうか。自分でも、びっくりしているのです。今では、ふしぎなくらい「予習」が楽しいのです。先生やお母さんの考えにしばらくられないで、自分でやり方を見つけ出せる楽しさが分かったのも一つの理由です。

※ ※  
回○○君と、どっちが先に終わらせるか、競争をした。ぼくは、算数の予習をしながら、競争相手がいるとすぐくはかどる、と思った。○○君に負けないように、他の教科の予習を少しおいて、算数の予習をやった。苦勞のすえ、五月二十一日、ついに算数の（上）の教科書残り八ページとなった。

「よし、今日終わらせるぞ」  
○○君もあと十ページくらいだった。学校が終わると、すぐ家へと全力で走った。家につくと、急いで算数をやった。そして、一時間後、  
「終わった」

算数の教科書をもらっておよそ一月半。やっと算数の教科書を終わらせた。

次の日学校へ行くと、○○君も終わっていた。だから（下）の本で決着をつけることにした。しかし、結果は（下）の本も同じ日に終わったので、六年で勝とうと思う。

学級は

私の学級には、班も係もありません。中学校から小学校に移って十四年、それで困ったことはありません。給

さらに、この学級には、いじめたり、いじめられたりする、そんな人が一人もいない。みんな大へんやさしい。前の学校、前の学級とは大ちがいがいた。前の学級では、私はゆったりできなかった。友達も多くなかった。この学級の人たちなら、前の学級では、のけものにされたり、いじめられたりする人ばかりではないかと思う。

私は、このやさしい人たちで、新しい友達をつくることは不可能ではない、と思った。だから、私は、この学級のためにすすんで仕事をひきうけたりする。  
この人たちなら、かならず、あまりせっせよく的でない○○君たちを立ち直らせることもできるだろう。この人たちなら、ぜったいできる、そう信じている。  
かがやかしく、勇気のある、最高のクラスを、この大きな学級を、強く信じている。

『大きな学級』とは

五年で編成替えはありましたが、四・五・六年生と持ち上がり。その子どもたちが五年の時に書きためた文章と、私の願い、教育方針や方法を書いたものを合わせ、共著として出版しました。それが『大きな学級』です。

この子らも、私が受け持った当初は、前回書いたような状況でした。  
しかし、やがて、学科の学習でも、その他の生活でも、非常に積極的、自主的になり、多くの面で私を追い抜いて行っただけです。

もちろん、順調にのみ進んだわけではありません。五年での編成替えの時期など、かなり後退したこともありましたが。しかし、ともかく子どもたちは「人間」を回復していったのです。

学科の学習

ただし、子どもたちの生活の中で、彼ら自身が必要な時には、討議して、それに適合する係を作ったり、一時的にグループを形成したりはします。「新聞社」や「音楽プロ」が設立され、社員募集もあつたりします。  
おとなが先に指示したり、枠づけしたりすることは、子どもたちの「人間」である部分をそぎ取っているのです。

学校はまちがいをすると、試行をだいに、と私は子どもと励まし合います。  
※ ※  
回「係」のない学級って、うまくやれるのだろうか、と私はふしぎでたまらなかつたので、○○ちゃんに、どうして「係」を作らないのか聞いてみた。

○○ちゃんは、  
「例えば、まど係があつたとするで。朝、まどの係の人が来てなくて、あれは係のしごとやからと、ずっとまどが開かんかったらどうする」  
こんなことを言われて、私は（確かにそういうこともあるな）と思った。

「ほんとや、もしその係の人が学校を休んでいたら、まどが開かないままだったりして、一日中その教室きたないね。やっぱり係なんてなくてもいい。自分たちがすすんでやれば、それで上とう」  
となつとくした。

前の四Aから来た人は、皆よくしごとを見つけてする。それを見て、私は、どうして係を作らないのか、係がなくてもやれるということが分かった。  
私もやらなきやあ。

（南国市立日章小学校教諭）

1989年度〈後期〉文化セミナー — 文化の隆盛と停滞を探る —

小松 和彦氏  
(大阪大学文学部助教授)  
現代文化の不思議な部分  
— 伝統文化と近代文化との葛藤 —  
9月25日(月)PM 6:30~  
高知共済会館 3F ホール

三隅 治雄氏  
(実践女子大学文学部教授)  
町の芸・村の芸  
— いきとやぼの美学 —  
10月9日(月)PM 6:30~  
高知共済会館 3F ホール

宮田 光雄氏  
(東北大学法学部教授)  
ナチ・ドイツの精神状況  
— 民衆の見た悪夢の話 —  
11月11日(土)PM 2:00~  
高知共済会館 3F ホール

※参加費はそれぞれ300円。お申し込み、お問い合わせは文化振興事業団まで。

付方言土佐日記 全訳注

土居 重俊著

最新刊

土佐日記

A5判 上製本箱入り 188頁 定価1,800円(税込)

「一々数えればきりがありません。学界のため慶賀すべき名著と存じます」松村誠一（成蹊大学名誉教授） 「さすがに国語学者で、論理的に迷うことなし。……諸説を丹念に吟味しておられて安心して読めます」中田祝夫（筑波大学名誉教授） 「前人未踏ともいべき古典全巻の方言訳に接し、言い知れぬ感慨を覚えました」日野資純（静岡大学名誉教授）



# 非核の未来めざす高校生たち

西村 雅人

「幡多高校生ゼミナール（略称・幡多ゼミ）」は、幡多地域九校の高校生と教員が自由に参加し、平和学習に取り組み自主学習サークルである全国にある、いわゆる「高校生平和ゼミナール」のひとつだ。モットーは、「足もとから真理と平和を見つめ、青春の生き方を学びあおう」（幡多ゼミ規約）。

幡多ゼミは、一九八三年八月、豊後水道に浮かぶ高知県唯一の（人の住む）離島、沖の島で結成されて以来、「疎開調査」「特攻隊基地調査」を経て、八五年からビキニ水爆実験被災調査に取り組んで来た。結成当時から、原水爆禁止世界大会や、その関連集会である全国高校生平和集会に代表団を送って自分たちの活動を発表したり、全国の仲間たちのすばらしい報告から積極的に学んで来た。今年で七年目の幡多ゼミは、年々パワーを強めている。

幡多ゼミが長持ちするわけは、楽しいからだ。高校生にとつて、他校の、それもいろんな高校の生徒と一緒に学んだり、交流したりすることは、とてもうれしいことだ。人が集まるということは楽しいことなので、ひとたびゼミの活動に参加すると、「また行きたい」ということになる。みんなが歌ったり踊ったり、はじめに意見を出し合ったり、豊かな自然

に接したり、手と足と頭と心で学ぶ現地調査に参加する中で、高校生を持つ人間としての可能性が急速に開花する。

せっかくの休日や休暇をついやして、炎天下のもと、ビキニ核実験被災者の家を一軒一軒たずねる彼らの姿を、また、活動を共にした仲間たちが明るく交流する姿を見ていると、核時代を生き抜く青春とはこういうものだろうと思えてくる。

なまの現実から学ぼうとする幡多ゼミにとっては、調査が決定的に重要な力を入れる。これは、苦勞も多いが教員にとつてもワクワクドキドキの貴重な体験となる。幡多ゼミには、発見の驚きと新鮮な感動がある。また、特定の証言者からの話を聞くだけだと、どうしても主観的になるおそれがあるので、客観的な資料を豊富に用意するようにしている。

もうひとつ大切なことは、顧問教員は生徒に結論を押しつけない、ということだ。それから、生徒個人個人の思想の自由、信仰の自由を何よりも大切にしている。生徒が、思想・信条の自由を権利として自覚することは、高校生の平和学習の重要な課題だ。

思えば、幡多ゼミを通じて様々な忘れがたい出会いがあった。疎開の

強行軍の中で幼ごの命をなくした母親。いまの高校生と同年くらいだった特攻隊員たちの「死ぬための青春」。長崎での被爆体験を何度でも話してくれたおばあさん（故人）、そして長崎・ビキニの二重被爆を苦に自殺してしまった、その息子さんの手紙類。核実験中の操業の後、白血球減退症で亡くなった水産高校生と、彼の妹さん。調査に終始協力してくれた、ビキニ被災者のSさん（故人）。国に被爆者健康手帳を求め続けて亡くなったTさんの奥さん。第五福竜丸乗組員だったOさん。放射能症で亡くなった久保山さんの奥さん。

こうした人々の思いを胸に、ゼミ活動は進んでいく。この一年間の特徴は、合唱構成詩「ビキニの海は忘れない」の上演や、ビデオ作品「海の十字架」「ビキニ被災船を追う高校生たち」の製作など、文化創造の面が強まったこと。死の灰を浴びた可能性のある廃船の発見。そして、記録映画「ビキニの海は忘れない」の撮影である。

この八月、高知と長崎・沖縄を結ぶ平和の旅がある。今年も、どんな出会いがあるのだろうか。そのすべてが来年のビキニデー（三月一日）に映像として公開される。（幡多高校生ゼミナール顧問教員）

## 私の風景

前田 嘉彦



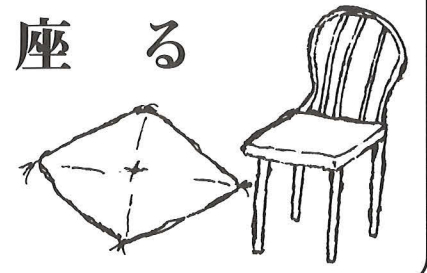
高知の路面電車の歴史は古く、明治37年5月堀詰一五丁目間が開通したのを皮切りに、次々に軌道が延長された。時代は移り、自動車時代になった今も市民の足として活躍している。

## 知寄町三丁目

昔、小学校で悪戯をしたり宿題を忘れてたりすると、よく立たされた。今はもつそつとした「体罰」がなくなっているかと思つて、そつでもないらしい。結構「立たせる」という罰が生きているのだ。立つというのは、それだけで懲罰になるのである。考えてみると立つというのは、楽な姿勢ではない。楽なのは座る姿勢である。もつと楽なのは、寝そべることである。休日の過ごし方で、ごろ寝が幅をきかせているのは、これがもつともくつろいでいられる姿勢だからである。板垣退助と西郷隆盛が対談したとき、西郷がどつぞ寝ころんで下さいとつと、板垣は天下のことを論ずるのに寝そべっては話せないと律儀なところをみせるが、薩摩では客をもてなすのに、もつとも打ち解けたやり方が寝そべって話すことであつた。さて、人間はどのように座ってきたか。縄文時代の土偶をみると、両膝を立て尻を地面につけたしゃがむ姿勢で座っている。中世の絵巻では、女の人も立て膝である。大和薬師寺にある神功皇后の彫刻

### 現代風俗を考える〈3〉

## 座る



はあぐらをかいた姿勢だ。女だてらにと言つてもはじまらない。正座が一般化するのには近世になってからで、封建制の秩序強化と無関係でない。正座は服従の姿勢である。同じ席であぐらをかいているものと正座した者がある場合、それが社会的地位の差を示していることからわかる。民主化された今日でも、目上の者が正座で、目下の者があぐらではさまにならない。若い人は正座が苦手な椅子に腰をかけるのが一番楽な姿勢だと考えている。だが腰をかけるより座つた方が楽だという人も結構いて、中年の婦人が電車の中などでよく座席の上に乗っているのを見掛ける。新幹線や飛行機のなかでもやっていると、習慣のおそろしさのようなものを感じさせる。上座下座というのは西洋にもあつて、椅子の場合ソファが上座で、ひじかけ椅子は主人用である。日本家屋では床の間に近い方で、出入り口の反対側が上座である。形式にこだわることはないが、無作法が無教養の露呈では恥ずかしい。せめて上座下座ぐらいは知っておきたい。



二〇〇号に今一步

川村 昇陽

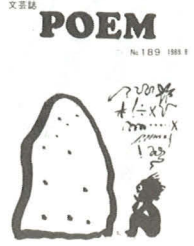
月刊同人誌「ポエム」は、昭和三十三年五月創刊した俳句ポエムを四十九年十二月に文芸誌として復刊したもので、十三号から発刊し、現在一九〇号を編集集中である。

同人誌というものは、創刊してもすぐに消えてしまうものが多い。創刊、廃刊の繰り返しの中で、土佐のい・こっそう、はちきん揃いのポエム同人達が入会、退会を繰り返しながら日本新記録を目標に珍文を発表している。

私達は、土佐の高知に一つぐらい自由に書きたいことを書き、言いたいこと、考える雑誌があっても良いではないかと考え、初心者も即作家である。若い作家のために誌面を開放し、詩、短歌、写真、書道など種々のジャンルの方たちにも自由に参加してもらい、大変なことだが同人誌の特色を生かしたものにしたいと張り切っている。

二〇〇号に手の届くところまで来た私達のポエムは、六十三年九月、同人集を発刊した。

また、同人の個人句集など生活に密着した個性豊かな作品集も現在までに十四冊を発刊しており、明治から平成に生きる同人達が、それぞれ趣味の短詩芸術作品を後世に残していきたいと念じながら、ポエム集団として、その日、その日を有意義に生き抜き、また、創作にも力いっ



ばい頑張っている。

(文芸誌ポエム発行責任者) 連絡先 安芸市港町二丁目六一一七 (〇八八七三) 五一五五八七

(川村)

こうち童話の会

こうち童話のあゆみ

窪田善太郎

こうち童話の会は、一九七〇年四月第一日曜日、高知新聞社の会議室で、第一回の会合を持ち、発足した。参加者は五十余名であった。そしてつぎのような事を決定した。



- (1) 本会は、童話の創作方法を研究し、会員は、毎月一編の作品を創作するよう努力すること。
- (2) 毎月定例会を開催し、各自作品を提出発表し、それについての合評会を行うこと。合評を受けた作品については、各自さらに推敲を重ね、次の合評会に再発表すること。
- (3) 童話の創作にあたっては、土佐独特の風土と伝統の中から取材し、土にまみれたやまゝいものような、作品を書くこと。
- (4) 昔話や、会話文については、語り口や方言(生活語)をなるべく生かして使う。
- (5) 機関紙「こうち童話」の発行。(会員の要望により、同人誌として年一回発行することを決定)

ボランティアグループ つばさの会

共同作業所を身近に

近森 正博

障害者問題は、人(心)・物・金が三位一体となって初めて健全者、障害者の差別なき法の下の平等が保障されるものと考え、人に関しては障害者問題啓発、物・金に関しては財貨の援助をというこ

とで、去る昭和五十八年末に「つばさの会」を二十四名で旗揚げしました。会は、日常的なボランティア活動とともにチャリティコンサートにも取り組み、今までに点字図書館、光の村、土佐希望の家、旭・ふれあい・青空共同作業所等へ資金援助をすることができました。

今年、台風11号のため来たる十一月六日に順延になりましたが、県下九つの無認可共同作業所へ複写機(コピー)を贈呈するため「長谷川きよし友愛コンサート」を計画しています。

各共同作業所間には横の連携、相互援助、情報交換は全くなきに等しい状況ですが、コンサートへの取り組みを通じて共同作業所が共同作業所ともなる一歩になればと考えています。また当日、会場ロビーでは市民の方々に共



俳誌「俳句聚落」

日野草城系一本槍で

高井 紅雨

はじめの言葉 ここにささやかな聚落をつくる。 人々は語り合い、励まし、励まされ、慰め合いつつ、おのがじんのわざにいそしむ。

或者は荒蕪地を開き、またある者は既成の田畑にその努力を傾ける。 人々の志向する所は必ずしも同一ではない。がその営みはただちに聚落の盛衰につながる。

と、昭和二十五年七月一日「俳句聚落」は創刊された。主宰・高井紅雨、師系・日野草城、編集・高井千枝子、月刊で現在は二三八号である。長い欠号は主宰の病氣入院等による。県内には「夏炬」「勾玉」「龍巻」など先輩誌が三誌くらいある。紅雨の移りかわりに従って太陽系、青空・野の会と変遷はあったが、それは草城・三樹彦・憲吉につながり、その憲吉も旧臘逝去された。

今、私は「俳句聚落」主宰、現代俳句協会評議員、故楠本憲吉主宰「野の会」無鑑査同人などをやっており、昭和六十年十二月には第三回高知ペンクラブ賞を

今年、「こうち童話の会」は二十年目を迎える。この間、月一回の定例会を休むことなく続け、会員の創作発表と合評を重ねてきた。また機関誌も一九七〇年十月一日に創刊して以来、一号の欠号もなく、本年八月現在三十八集を教える。

各集を発行した翌月には、大学の先生などに講師を依頼し、各作品についての講評を受けている。

連絡先 高知市小津町一五一六 (一三二二八八七) 窪田

同作業所を身近に感じて頂くことと各作業所の紹介や製品の展示・販売を行います。

全員が本職を持ちながらの活動のため、イベントが迫りますと人手不足で苦勞しますが、報酬、代価を求めない活動の中で人を知る、友人ができるという反対給付は何物にも代え難い喜びです。老若男女を問いません。あなたも私たちと一緒に活動してみませんか。

(つばさの会事務局長) 連絡先 高知市神田三二二二〇 四三二〇五六八 (pm 6時以降)

頂いた。

誓子、多佳子、斌雄、まもる、三樹彦、憲吉、潮、兜太、祥正、利彦、鳴岳らと聚落に迎えた有名県外俳人の名は多い。無鑑査同人には千秋、幸明、冬女、青子、ひで、ふさ、小玉、三星、千枝子、敏夫らが健在である。

入会は随時可、初心者も歓迎。会費納入と同時に会員となることができる。 (俳句聚落) 主宰) 連絡先 高知市中水道二一三三 七二一六六〇八 (俳句聚落社)

散歩の途中で



高須ハイパープラザの交差点より歩いて約二十分、屋頭地区の広々とした水田地帯に巨大な石のモニュメントが立つ。これは現代立体作家門脇おさむさんの作品群。台はもちろん、かざぐるまも全て石で作られているが、ちょっとした風にもくるくるとよく回る。風になびく稲穂を背景に回るかざぐるまを見ると子供の頃の思い出が頭をよぎる。

風伯

オペラ 「純信お馬」

土佐文雄の原作小説「純信お馬 よさこい物語」が、原嘉寿子の台本・作曲によってオペラになるという。 原嘉寿子は、日本のオペラ作曲家の第一人者であり、春の芸術選賞の受賞者でもある。オペラ「純信お馬」は、来年(平成二年)、

日本オペラ協会(藤原歌劇団関与)の手によって東京で初演される運びだという。そして成功すれば世界にも持っていく、という。 私たち土佐人にとっては、「よさこい節」が単に歌としてだけではないオペラとして世に出ることは大変嬉しいことである。ぜひ

成功して欲しいものだ。

ところで、このオペラ「純信お馬」を高知で観劇することができるかどうか、ということになると些か難しい。オペラは上演経費が演劇の倍は軽いかかと聞く。入場料で賄える代物ではない。だからといって、地元オペラが地元で観劇できぬとあつては大変残念だし、また地元高知の文化レベルが問われよう。

先日、歌劇「椿姫」のハイライトシーン上演の解説のために来県した東京芸大名誉教授の畑中良輔音楽評論家は、「高知新聞」紙上(7月11日付夕刊)でオペラというものの素晴らしさを述べたあと、「例の土佐物オペラ「純信お馬」もまず高知で初演できるような盛り上がりが必要ですね。高知の人にもっとオペラに親しんでもらって高知市などにもっと文化や芸術に対するサポートを望みたい」と語っている。

市民も行政も共々、耳を傾けたいものだ。(文)



明日は美しいか  
未来は夢みるに値するか  
幕末と現代  
二つの時代の青春像

ミュージカル



きみは今も輝いて

10/28(土) ① P.M. 6:30 開演 (開場P.M. 6:00)

29(日) ② P.M. 1:00 開演 (開場P.M. 12:30 ※託児所有り)  
③ P.M. 6:00 開演 (開場P.M. 5:30)

● 県民文化ホール(オレンジ) ● 入場料 ¥2,000 (全自由席 公演別)  
※ 市内各プレイガイド、事務局で発売中

主催 / 高知市文化振興事業団

制作 / ミュージカル龍馬制作委員会

出演 劇社中 龍馬

お問い合わせ先：ミュージカル龍馬制作委員会[高知市文化振興事業団内] ☎0888-73-4365

財団法人 高知市文化振興事業団  
〒780 高知市本町五丁目二番三号  
TEL(〇八八八)⑦四三六五  
郵便振替 徳島8-14869

## 講座 方言で読む土佐日記

〈講師〉 土居重俊氏 (高知大学名誉教授、高知学園短大講師)

〈日程〉 9月 5日、19日、26日 10月 3日、17日、24日、31日  
(7回とも火曜日、午後2時～4時)

〈場所〉 9月5日、19日は高知県文教会館、その他は高知市民図書館

〈定員〉 50名 〈受講料〉 1000円 (講座7回分)

※テキストは先生の近著『土佐日記』です。また、11月3日には  
現地見学会も予定しています。

お申し込み、お問い合わせ：文化振興事業団 担当 大家

定期購読の賛助会員募集。年会費2,000円(年6回郵送) 事業団主催事業の入場券や出版物の割引等の特典あり。